

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R6(2024).12.2

No. 14

豊岡市のホームページにもアップしています。

豊岡市 HP→上段「暮らし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ

コミュニケーション教育 ～すべての活動で意識を～

先月、県内の研修センター担当者に向けて、平田オリザ先生がご講演されました。その中で、**コミュニケーション教育の重要性**について、改めて示唆されています。

また、「演劇的手法を取り入れた授業に係る研修会」では、多くの参加者から改めて**日常生活・学習でコミュニケーション能力の4つの視点を意識することが大切だ**との声がありました。

— ご参考いただき、今年度の後半の教育活動に活用ください。 —

兵庫県内研修所連盟研究発表大会 記念講演

「主体的、対話的で愛のある学び—大学入試改革から観る新しい学力観—」

芸術文化観光専門職大学長 平田 オリザ 氏 より

○大学入試制度…教科等関連型の入試が増えている。大学の授業モデルに沿った入試の形も多い。

Connecting the dots (点と点を結んで物語をつくる…過去何かに没頭したことはいつか何かにつながる)。

○社会的文化資本(金銭などの経済的資本以外の、学歴や文化的素養などの個人的資本)が問われる。

…本物、いいものに触れることで身に付く。大学入試についても、1~2年間の受験勉強では間に合わない。

幼い時期から、芸術・文化にふれる機会を持つこと。となりの子を大切にすること。この子の育成。家庭において、親子で宿題をすることはよいが、「教え方」「関わり方」がポイント。

○シンパシーからエンパシーへ…同情から共感へ。同一性から共有性へ。同意はしないけれど理解に努める。

対話(dialogue)を大切に=Aの意見、Bの意見⇒Cの意見(合意形成)

○対話を生み出す授業、対話を仕掛ける授業、自然状態では「会話」のまま⇒「共感のある学び」を!

演劇的手法を取り入れた授業に係る研修会より～授業のポイント～

☆タイムキープ⇒短めに設定。延長は極力しない。

☆折り合いをつける⇒基本、声掛けはしない。主体的に活動しようとしている場合やアイデアは出るが実現しない、または子ども同士のつなぎ方等については助言する。

☆演劇の中で役を担うこと⇒自己有用感につながる。話すことが苦手な子は、話さない役でよい。

☆グループ作りについて⇒話し合う環境を変えること。ランダム or 人間関係を考慮して意図的に作る。グループの人数は、4~6人が最適。

☆フィードバックについて⇒基本は褒める。集団の工夫を褒める。ダメだしするときも、代案を示す。

【大切なポイント】活動している子どもの様子を観察すること。うまくいかなかったことについては、日常生活・学習で身に付けていく。トライ&エラー。

コミュニケーション教育

性別や年代を超えて、対等な関係の中で自分を主張し、他者を理解できる基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
指導区分	前期				中期			後期		
コミュニケーション教育	4つの視点				①他者を理解する ③他者と協働する		②自己を見つめる ④表現活動を取り入れ課題に取り組む			
	「めざすコミュニケーション能力の視点とその留意点一覧表」に沿って日常生活・学習で行う									
	演劇的手法を取り入れた授業									